

あのね

1
2015

あのね 福音館より ● 2015年1月号
毎月1回1日発行 ● 通巻268号
発行 ● (株)福音館書店 広報宣伝課
〒113-8686 東京都文京区本駒込6-6-3
がくみビル ● http://www.fukuinkan.co.jp
TEL03-3942-2066 FAX03-3942-2067
デザイン ● 風草工房・加清明子

今月は『こぶたのぶーぶ』の作者、西内ミナミさんからエッセイをご寄稿いただきました。



◎福音館創作童話シリーズ

こぶたのぶーぶ

西内ミナミ/作 真島節子/絵
22×16cm 128頁
定価(本体1,500+税)
※林のなかの一軒家に、こぶたのぶーぶが、ひとり暮らしを暮らしていました。きょうも、ぶーぶは、元気よくおきと、朝の体操をし、おいしい空気を胸いっぱいにすいました……。
★本書は、次の刊行物に掲載されたものに大幅に加筆、修正し、まとめています。
「芽」(JULA出版局)
「おはなしチャイルド」(チャイルド本社)
「母の友」(福音館書店)

西内ミナミ(にしうち みなみ)

1938年、京都市に生まれる。東京女子大学在学中より児童文学の創作を志す。卒業後、広告会社にコピーライターとして約10年勤務。1965年、堀内誠一氏の薦めにより、はじめての絵本『ぐるんぱのようちえん』(福音館書店)を出版。絵本に『ゆうちゃんどめんどくさいサイ』『とんがとびんがのプレゼント』(以上、福音館書店)、『おもいついたら そのときに!』(こぐま社)、『しっこっこ』(偕成社)ほか多数。創作童話に『プレゼントは お・ぼ・け』(フレーベル館)、『ペンギンベッコさん だいかつやく』(鈴木出版)ほか多数ある。長年、子どもの読書推進活動にも携わっている。



Illustrations © Setsuko Mashima 2014

今月の新刊

◎幼児絵本ふしぎなたねシリーズ

あかくん でんしゃとはしる

あんどう としひこ/作
21×23cm 定価(本体800円+税)(上旬発売)
※でんしゃといっしょに、たのしいドライブ!

◎ボクラノ/SFシリーズ

シンドローム

佐藤哲也/作 西村ツチカ/画
18×12cm 定価(本体1,600円+税)(中旬発売)
※宇宙戦争なんだ、とぼくは思う。

◎世界傑作絵本シリーズ

トヤのひっこし

イチンノロフ・ガンバートル/文 パーサンスレン・ポロルマー/絵
津田紀子/訳 24×31cm 定価(本体1,500円+税)(下旬発売)
※モンゴル大草原の遊牧民の日常を描いた絵本。

◎ランドセルブックス

ネコのナレオン・ファミリー

木坂 涼/文 はたこうしろう/絵
24×20cm 定価(本体1,200円+税)(中旬発売)
※毎日ドタバタ、にぎやかなネコ一家の物語。

◎福音館の単行本

ラオス 山の村に図書館ができた

安井清子/著 20×14cm 定価(本体1,500円+税)(中旬発売)
※ゲオバトウ村に子ども図書館をつくらう!

◎福音館文庫 昔話

黒いお姫さま — ドイツの昔話

ヴィルヘルム・ブッシュ/採話 上田真而子/編・訳
佐々木マキ/絵 18×13cm 定価(本体600円+税)(上旬発売)
※ちよっぴりこわくて不思議なドイツの昔話。

ぶーぶより ことづかったメッセージ 西内ミナミ

こぶたのぶーぶが誕生したのは、32年も前のこと！
だからって、ぶーぶは32歳ってわけではないんですけど。ただね、パソコンはもちろん、ワープロなどもない原稿用紙の時代でした。デビューは幼稚園・保育園向けの絵本。今回の童話集では第一話の「たいへんな大そうじ」のお話で、ぶーぶは、次々と汚しちゃった服を着替え、散らかった家の内外を掃除し、ある春の一日をくたくたに疲れきって終える。(どうやら作者の日常生活がチラホラ透けてみえる?)ところが、その奮闘ぶりが画家の手により擬人化された豚像で13場面の絵と共に作品となっていくにつれ、私の頭の中にしっかりと、ぶーぶが住みついてしまい、「林の中の一軒家」とその周辺の世界ができあがり、原稿依頼などないにもかかわらず続きのお話ができはじめたのです。私の頭のなかには、すでにカラスのカーター一家が住んでいる森もあれば、「ウサギー」と「キツネー」のパン屋がパン販売競争を繰り広げている野原もあるのに……。



でも、頭の中では、それぞれの部族は混雑や戦争もなく、それぞれの軌道をちゃーんと回っていて平和って感じです。

以来、ぶーぶのお話も、同人誌や、縁あって「母の友」や、季刊の雑誌連載の場をもらい、ふと気が付くと13話も溜まったのです。

あら、失礼。「いきさつはともかく、ほくの紹介はどうなった？」と、この度めでたく真島節子さんの素敵なオールカラーの挿し絵でお目見えしたぶーぶが声をあげはじめました。以下はぶーぶのご紹介。

「こぶた」となっているけど、ぶたの子どもではない! あえていうなら「こぶた」という動物。年齢? まあ、ア・ラ・

サー一位? だから少々不便はあるものの、優雅なひとり暮らしを楽しんでいる。お友達は多いほうで近くの林や森に住んでいる動物たち。

国籍? なんとなく英、伊、仏、独あたりの自然の中に小さな町が点在し湖などがある、なだらかな丘陵地帯の「ぶーぶワールド」(作者想定)。ぶーぶの家は、あまり人間が歩き回らない林の中にあって、ちょっと離れた人間の町には、食品やお花など売っているお店もあり、人々は、こぶたやうさぎが買い物にきても、ちっとも驚かずに品物を売ってくれる。

え? ぶーぶは、お金もってるの?

そこはそれ、ぶーぶは最後のオオカミを退治した『3びきのこぶた』の3番目のこぶたの子孫ってことだから、ご先祖のおじいさん豚がご褒美にもらった財産があるのかもしれない??

さてと、肝心なのはぶーぶの性格です!?

まずは、お人好し、理屈っぽいけどどこかぬけていて、そそっかしい。おやおや、誰かさんに似てる? 本人(本こぶた)は真剣なのですが、なぜか小さな事件が起きてしまう。どうぞ、よろしくお付き合いのほどを!

